卵胞刺激ホルモン(FSH)	1003500
	担当部署
FSH	生化

検査オーダー

患者同意に関する要求事項		特記事項なし
オーダリング手順	1	電子カルテ→指示①→検査→*2.分野別→腫瘍マーカー・内分泌→
	2	
	3	
	4	
	5	
検査に影響する臨床情報		特記事項なし
検査受付時間		8：15～16：00

検体採取・搬送・保存

患者の事前準備事項	特記事項なし
検体採取の特別なタイミング	負荷試験時や日内変動採血指示などの指示がある場合、指示通り

	検体の種類	採取管名	内容物	採取量	単位
1	全血	10 青	分離剤	8	mL
2	-	-	-	-	-
3	-	-	-	-	-
4	-	-	-	-	-
5	-	-	-	-	-
6	-	-	-	-	-
7	-	-	-	-	-
8	-	-	-	-	-

検体搬送条件	室温
検体受入不可基準	1)採取容器違いの検体 2)バーコードラベルの貼られていない検体 3)固形物 4)粘性のある検体
保管検体の保存期間	冷蔵・2 週間(追加検査については、検査室に要問合せ)

検査結果・報告

検査室の所在地	病院棟 3 階　中央検査部				
測定時間	当日中～翌日				
生物学的基準範囲	別紙参照				
臨床判断値	設定なし				
基準値				単位	mIU/mL
共通低値	共通高値	男性低値	男性高値	女性低値	女性高値
設定なし	設定なし	設定なし	設定なし	設定なし	設定なし
パニック値	高値	設定なし			
	低値	設定なし			
生理的変動要因	特記事項なし				
臨床的意義	卵胞刺激ホルモン(FSH)は、黄体形成ホルモン(LH) と共に下垂体前葉から分泌されるゴナドトロピンで、標的臓器である卵巣や精巣など性腺を刺激する作用をもつ。 FSH，LH は視床下部から分泌される LH-RH により刺激され、さらにエストロジェンなどの性ホルモンによるフィードバックで分泌が調節されている。 FSH が低値となる疾患はほとんどが下垂体異常によるもので、通常は LH の低下を伴う。逆にゴナドトロピン高値になる病態には卵巣性無月経などの性腺機能低下症が挙げられる. 三菱化学メディエンス　検査項目解説　改訂第 4 版 222				